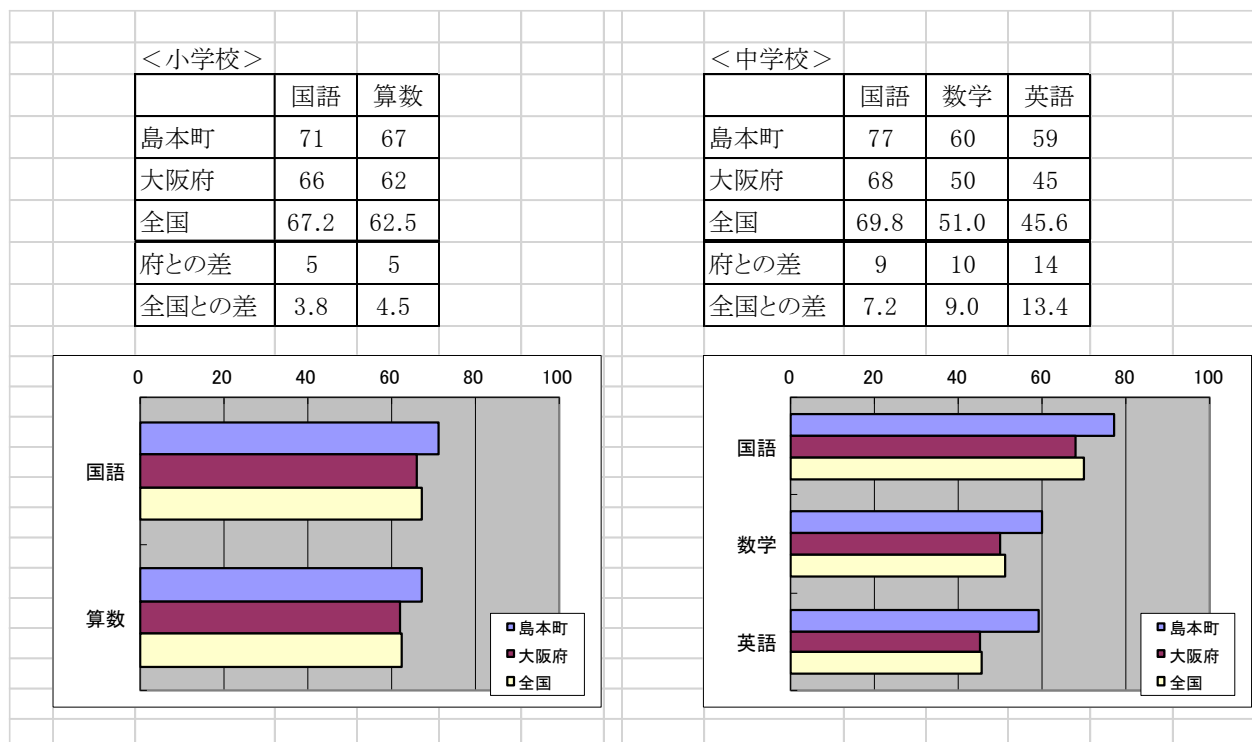


## 令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

本年4月18日、全国の小学6年生及び中学3年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が実施され（悉皆調査は令和4年度に続き13回目）、7月24日に文部科学省より都道府県別の調査結果が発表されました。その概要についてお知らせします。

### 1 本町の結果概要について

平均正答率一覧（単位は100%中の正答率の値）



学力に係る調査は、小学校は国語、算数の2教科、中学校は国語、数学、英語の3教科について実施されました。

小学校において、全国平均に対して国語では3.8ポイント、算数では4.5ポイント上回る結果となりました。

中学校においても、全国平均に対して国語では7.2ポイント、数学では9.0ポイント、英語では13.4ポイント上回る結果となりました。

無解答率については、小学校及び中学校ですべての教科区分で全国平均と比較して良い結果となりました。（無解答率については、値が低いほど良い傾向となります。）

### 2 質問紙調査結果について

※数値は、町全体の肯定的な回答の割合（%）と、全国との差【ポイント】

#### (1) 話し合い活動について

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

<小学校：児童質問紙13番> 島本町：71.7% 【-4.8】

<中学校：生徒質問紙13番> 島本町：81.2% 【+3.6】

#### (2) 自学自習について

「家で、自分で計画を立てて勉強していますか。」（よくしている、ときどきしていると答えた児童・生徒の割合）

<小学校：児童質問紙16番> 島本町：66.7% 【-4.0】

<中学校：生徒質問紙16番> 島本町：57.7% 【+2.7】

学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力

等)の育成が掲げられ、その育成のために、各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを推進してきました。また、昨年度までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教育活動の制限がある中で、活動目的を明確にし、課題に正対した取組みを推進してきました。今後も、一人ひとりの児童・生徒の違いを認め合えるような教育活動の充実を図っていきます。

### 3 主体的に学ぶ力の育成に向けた取組について

- (1) すべての児童・生徒が安心して学び合い、高め合うための集団づくりを進めます。
- (2) 他者意識を伴ったコミュニケーション力の育成を図ります。
- (3) 「複数の資料を比較して読む」、「文章を批判的に読み、信憑性を評価する」、「読んだことについて、自分の考えを記述する」ことに課題を焦点化した取組に加えて、児童・生徒が自ら学習の必然性に気づき、課題を発見できるような、探究的な学習を推進してまいります。
- (4) 個別最適化の学びと協働的な学びを実現するため、ICT機器をあたりまえの「学びのツール」として活用します。
- (5) 学習意欲を重視し、自己調整の結果、総合的に学びを深めていける学びの場づくりを設定してまいります。

本調査結果や過去のデータ、また「島本町学習状況調査」の結果等を含め、総合的に分析を行い、それぞれの学校が組織的に「学力向上」策を検討・実施することで、児童・生徒一人ひとりの「確かな学力」を育成していきます。

なお、この調査は、対象が限られた学年（小学6年生、中学3年生）のみの実施であり、加えて、国語、算数・数学、英語という学力全体の一部を調べたものです。したがって、公表したデータが本町の児童・生徒の学力全体を表すものではありません。

#### 参考資料（ホームページリンク先）

- 国立教育政策研究所：<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>
- 大阪府教育委員会：<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/zenkoku/index.html>